

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

✿ 日本自立生活センター自立支援事業所 2024年1月25日発行 第154号

居場所づくり勉強会 第73弾

岩本さんの地域移行と1980年代の地域生活

一昨年に米寿を迎えられた岩本永子さんは、親元を出て地域で生活を始められて42年になります。当時の障害者は家族と同居か施設しか居場所がなく、自立生活どころか外出もほとんどできないような時代だったそうです。つまり、居宅介護などの公的なサポートも周囲の理解も今よりずっと乏しい中で、地域移行をし、障害者の地域生活を切り開いてこられたのです。

そんな厳しい状況でいったいどうやって？キャンプが重要？使えた制度は？住まいは？街中も電車・バスもバリアだらけの中どう移動していたのか？そんなあれこれを、岩本さんご本人と、その当時からの支援者の方々に語っていただきます。現在の障害者の地域生活の原点を振り返る、または初めて知る貴重な機会になると思います。奮ってご参加ください。

日時：2月20日（火）13:30～15:30

話者：岩本永子さん、松原さつきさん、石井久子さん、
増戸雅子さん、中井敬二さん

参加費：無料

場所：JCIL 本体事務所（南区東九条松田町28メゾンガラス
京都十条101）

Zoom ID: 837 0928 9067
パス: 434620



第11回

★日時:2月6日（火）13:00～16:00
★スタジアム:多文化交流ネットワークサロン

スタジアムはお馴染み多文化交流ネットワークサロン!!

お好きな時間に来て、無理せずお好きな時間に帰ってもらって大丈夫です。ラリーが続くとどんどんゲームは白熱！かなりの速さでスマッシュが決まったり、ゆるゆる球で得点が入ったりします。ぜひみなさん、見学だけでもお気軽にお越しください～（担当：野瀬、宇田）



第44回京都福祉まつり

2024年3月10日(日)11:00-15:30
京都市地域・多文化交流ネットワークセンター

3/10(日) 11:00-15:30

場所：京都市地域・多文化交流ネットワークセンター
入場無料・雨天決行
※手話通訳あり

飲食コーナー・体験コーナーあり
東九条謎解きツアー参加者募集！

ステージ出演者
さむるのたまご 朝鮮半島伝統打楽器演奏
Duo chouchous クラシックギターデュオ
はあと 女性ヴォーカルデュオ
副産物楽団ゾンビーズ ゾンビ楽器の演奏



東九条謎解きツアー参加者募集！

雨天決行 入場無料 ※手話通訳あり

ステージ出演者
さむるのたまご 朝鮮半島伝統打楽器演奏
Duo chouchous クラシックギターデュオ
はあと 女性ヴォーカルデュオ
副産物楽団ゾンビーズ ゾンビ楽器の演奏

京都福祉まつりホームページ QRコード
京都福祉まつり Facebook QRコード

詳細はコチラ

京都福祉まつりホームページ



詳細は
コチラ



京都福祉まつり Facebook ページ



なじよすっぺ!
「どうしよう?」

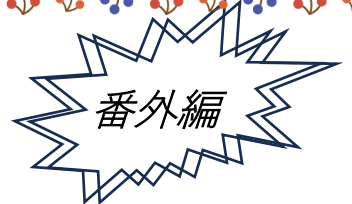


さすけねえ～
ちかげさ聞いてみっぺ
「だいじょうぶ～
ちかげにきいてみよう」

↓ちかげ



のコーナー



12月12日原発賠償京都訴訟の本人尋問を無事終わりました。JCILからも傍聴して下さった方々本当にありがとうございました。原告から代表4人、私は地裁に続き2度目の本人尋問でしたが、弁護士の方々との準備と練習は12年間の辛い経験と前回の尋問を思い出し久しぶりに酷くメンタルが弱ってしまい食事もままならぬ状態でした。

当日、高裁に着き家族LINEに「反対尋問が怖い」と送ると、長女が「本当は私が立たなければならぬのにごめんなさい。でも私たちは何も間違っていないから自信持ってね。心は一緒にいるからね」と励ましてくれました。

長女はPTSDを患ってしまいました。パニック障害や過呼吸発作に今も苦しんでいます。通学やバイトへ行く電車に乗れなかったり、途中で苦しくなり帰りの電車にも乗れず迎えに行ったり。発作が起きると私はとにかく抱きしめてあげる事しかできませんでした。留学中に離れている時は一晩中電話を繋いだまま泣き声を聞いてあげていました。今は少しずつ発作の回数も減ってきていますが、いつまでこの苦しみが続くのか、死んでしまった方が楽だと希死念慮に襲われています。陳述書を読み返すと娘の陳述書には「10代20代の人生で一番輝かしい時期をめちゃくちゃにされてしまった。私の青春を返して欲しい」と綴られていました。事故当時娘は中学1年生でしたから自分自身を苦しめている原因が何かを充分理解していました。

反対尋問の内容は「福島市の広報誌は見てたか? こどもたちの同級生はどのくらい避難したか? 残った方はなぜ残っているのか?」など避難した事の否定。「長女は高校の時に軽音コンクールでグランプリを取りましたね。今ブランドを立ち上げて SNS などで発信し自身の商品を販売してますね。」と活躍しているではないか。という内容でした。

私は尋問の最後に「どんな12年でしたか」と問われ「怒りと失望感を味わい続けている12年です。被告と被告弁護人にとって裁判は仕事ですが、私たち原告は自分の暮らし人生そのものなのです。」とこたえました。

私は尋問を受けるにあたり自分自身の良心に誓い立ちました。けれど被告らの良心や誠意は今まで一切感じた事はありません。

「お母さん、胸が痛くて息ができない苦しい、死にそう」と泣きながら吐く、呼吸困難になる娘をさすって抱きしめる。我が家だけでなく多くの方々が原発事故によって奪われてしまった日常生活。

自分が死んでからも何代先まで続くかわからない放射性物質による被害に苦しんでいる現実を受け止めて、公正な判決を心から期待してやみません。

菅野千景

滋賀県旧優生保護法情報公開請求訴訟 大阪高裁判傍聴へのご協力を お願いします

今回の裁判は、結審の予定です。
引き続き、傍聴のご協力をお願い
します。香田晴子

今までの裁判の経過

旧優生保護法による強制不妊手術が行われた経緯や詳細が書かれている資料を京都新聞社が滋賀県に対して開示請求しましたが、滋賀県からの開示資料は殆ど黒塗りや皆無に等しいものでした。一人でも多くの被害者の救済、二度とこのような人権侵害を起こさないためにも情報公開が必要不可欠であることを訴えてきました。

裁判は二年に渡り審議され、2023年3月24日に判決が出され、8割の公開が認められたが全面公開は認められませんでした。滋賀県、京都新聞社、双方が不服として控訴しました。控訴後2回目の裁判です。一人でも多くの方々に来て頂きたいと思います。

裁判傍聴と報告会の日時と申込方法

日時：2024年2月27日(火)16時開廷

場所：大阪高等裁判所本館202号法廷

(傍聴券配布について) 開廷1時間前に抽選があります

大阪高裁での傍聴が終わってから、報告会を開催します。(場所は未定)
弁護団からの裁判内容の説明、原告の思い、支援者からの発言などです。

☆車いすでの傍聴希望の方は、2月13日までにご連絡ください。

☆情報保障(手話通訳・文字通訳など)が必要な方は、2月13日までにご連絡ください。(尚、ご希望に添えないこともあります)

ご不明な点などございましたらお気軽にご相談ください。

報告会はオンライン配信を行いますので、参加希望の方は名前とメールアドレスを記入してメールで下記の申込先に申し込んでください。後ほど、報告会参加のURLを送らせていただきます。

[裁判傍聴当日の情報保障のご協力をお願い]

報告会の時にオンラインで行うので、サポートして頂けるボランティアを募集しています。詳細は下記の申込先まで。

※申込先

村田恵子

携帯:090-8886-9377

Email: miyabi-kyotojapan@docomo.ne.jp



2/4(日) 12:30-15:30

場所：JCIL 事務所にて

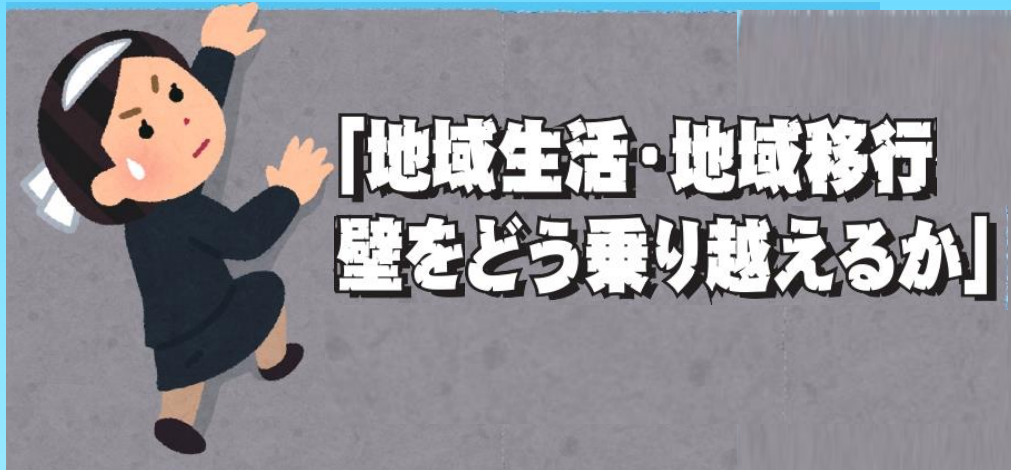
参加費：700円

内容：お餅、芋煮、飲み物1杯(植田さんのコーヒー・ジュース)

申込み：不要

お正月らしい楽しいゲームも用意しています
みなさま、ぜひふるってご参加ください。

担当：辻本、伊藤、宇田、米山



ZOOM



日時：2024年2月28日（水）13:00～16:30

場所：京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

ZOOM ID: 830 3609 4212 パスコード:230228

参加費：無料（参加申込も不要）

趣旨 現在「次期はぐくみ支え合うまち・京都ほほえみプラン（案）」のパブリックコメントが募集されています（募集期間：1月9日～2月9日。施行は2024年4月より）。そこでは、地域移行や施設入所者数削減の数値目標を高く設定し、「地域生活継続・地域移行コーディネーター」を新設するなど、これまでになく地域生活継続や地域移行を進めていくプランとなっています。一方で、施設入所が減っていくことへの不安の声も聞かれます。地域生活を継続しつづけるにはまだ高い壁があります。施設から地域へ移行する際にも高い壁があります。これらをどう乗り越えていったらいいでしょうか。当事者、家族、事業所、研究者など、みなでゆるやかにつながりながら、この壁を乗り越えていく方法を探っていきたいと思います。

話題提供者

- ◆京都市障害保健福祉推進室 「次期ほほえみプラン」についてなど
- ◆岡田まりさん（立命館大学、審議会会長）京都市障害者施策推進審議会や京都市障害者実態調査などについて
- ◆中西昌哉さん（社会福祉法人世光福祉会 障がい者地域共生拠点イマジン統括管理者）「地域生活継続・地域移行コーディネーター」についてなど
- ◆竹口宏樹さん・諒河さん 入所施設からの地域移行を目指して
- ◆蓑島豪智さん・館澤謙蔵さん（医療法人稲門会 いわくら病院）、小原杏奈さん（一般財団法人川越病院ソーシャルワーカー）精神に障害のある方の地域移行・地域生活について（「移動支援を使った取り組み」について）など
- ◆施設関係者

* 情報保障：要約筆記あり

手話通訳が必要な方は事前にお申し込みください。（会場対面のみ。申込締切 2月14日）

◇◇◇ 連絡先 ◇◇◇

日本自立生活センター（JCIL）（担当下林、渡邊）

電話：075-671-8484 Fax：075-671-8418

Mail：jcil@cream.plala.or.jp Web：<http://www.jcil.jp/>